



『「勉強しなさい！」と言わない子育て』 著者 山本崇雄 より Vol.2

Q 最近、子どもに親が話し掛けても、あまり話してくれなくなりました。思春期だから仕方ないのでしょうか？

A 中高生になると、ほとんどの子どもが親とじっくり話すことを敬遠するようになります。背景には「ちゃんと聞いてくれない」「悪いのはこっちと決めてかかっている」「話しても否定されるだけ」などの理由があるようです。

Q うちの子は、娘が高2で息子が高1です。娘は中学校の頃もそれほど反抗的ではなかったのですが、息子は最近、気分が不安定で……。親が何か言うと「うるさい」とか「ほっといて」と言い返してきて、会話がうまくいきません。

A 楽しそうにしている日もあれば、妙に反抗的になっている日もあったりしますか？ 気分のむらの背景には、学校であったこととか、息子さんの「虫の居所」もあるでしょうね。反抗期という言葉でくくってしまうと、いじめ被害など深刻な問題を見逃してしまう危険性がありますが、まあそういう態度になりやすい時期だと覚悟しておいておくことも必要です。ただ、成長過程における正常な反応とはいえ、反抗的な態度の裏には、ちゃんと理由があるものですよ。

Q 話し掛けても返事をしないのにも理由があるんですか？

A 普段、あまり子どもの話を聞く機会をとっていないのに、ちょっと時間ができたからって子ども部屋をのぞいて「勉強の調子はどう？」なんて話し掛けていませんか？ 子どもにとっては、集中して問題に取り組みたい時間だったのかもしれませんが、話す気分じゃなかったのかもしれませんが。

大人同士でコミュニケーションをとる場合、最初に「いまちょっといい？」とか「話す時間ある？」などと一声掛けて、相手の都合を確かめませんか？ 子どもに対しても同じようにするといいですよ。

Q そこで「うるさい」と返されると、その後、話し掛けにくくなるんですね。

A 真っ向から拒否されると、辛いですね。でも、親として子どもに興味を持ち続けることはとても大切です。「勝手にしろ！」なんて言葉は興味がないという意味なのでNGです。いつも見ている、気にかけているということを態度で示してください。子どもが話し掛けてきたときに、スマホをいじりながら相槌を打つなんてのもダメです。大人同士でそれをしてたら「なんて失礼な人だ！」となるでしょう。子どもに対しても、当たり前前の礼儀を尽くさないといけません。

Q 子どもが話し掛けてきたときには、きちんと顔を見て話すようにします。

A ぜひ、そうしてください。「親は、自分がどんな選択をしても、ちゃんと話を聞いてくれる。受け止めてくれる。」と、子どもが大人を信じられるようにすることが重要です。

僕は、子どもが学校の様子を話し掛けてきたときは、できる限りいったん手を止め、聞く姿勢を示すようにしています。せっかく話し掛けてくれたのに、よく聞きもせず、「それは～だよ」とか「それはダメでしょう」なんて否定してしまったら、子どもは話し掛けなくなりまますから。最初の一言が大切です。決して否定せず、「そんなふうに思ってたんだね」「話してくれてうれしいよ」と受け止めましょう。